

## 日本農業気象学会 2013 年度第 3 回理事会議事録

日 時：8 月 31 日（土）9:30～12:00

会 場：いわて県民情報交流センターアイーナ 802 会議室（岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目 7-1）

出席者：大政謙次、小林和彦、小沢 聖、広田知良、菅野洋光、鳥谷 均、宮田 明、  
富士原和宏、林 真紀夫、町村 尚、荊木康臣、脇山恭行、石郷岡康史、杜 明遠、平野高司、  
沖 一雄、松島 大、間野正美、中屋 耕

欠席者：皆已幸也、横山 仁、細井文樹

### 【議事録・議事要旨確認】

1. 2013 年度第 2 回理事会議事録報告（資料 1）（荊木 総務理事）  
指摘事項がない場合は、次回に確定。

### 【報告・連絡事項】

1. 編集委員会報告（資料 2）（中屋 編集理事）  
8 月 24 日に開催された編集委員会に関して以下のような報告がなされた。
  - ・論文審査状況
    - ① Journal of Agricultural Meteorology の Vol.69 No.3 は 12 報が校了、Vol.69 No.4 が 5 報、Vol.70 No.1 が 2 報掲載予定であり、審査中 10 報。最近（7 月・8 月）は、投稿が減っている。
    - ② 「生物と気象」は 2 報審査中。
    - ③ 部会特集号：センシング・モニタリング技術研究部会の特集を Vol.70 No.3 に予定している。  
なお、2014 年 2 月に投稿締切予定である。
    - ④ 「生物と気象」の論文以外では、部会報告 1、受賞講演 1、支部報告 1 を Web 掲載。
  - ・SCI 登録に向けて、トムソンロイター社（日本支社）を訪問し、以下のような情報を得た。
    - ① 審査されるジャーナル数は、2000 誌／年で、採択率は 10～20%、「Journal of Agricultural Meteorology」は既に《BIOSIS：同社データベース》に登録済み。
    - ② 審査は、アメリカ本社で行われ、International Diversity も審査基準となる。
    - ③ 申請後に学会誌 3 号分（刷り上がり PDF）を審査のために送る必要があり、結果通知は早くても 3 号分の送付後になる。

なお、International Diversity について質問（小林副会長）があり、編集委員の国際的な活躍なども審査基準になるとの説明がなされた。

また、重要なのは論文数の確保と発行期日を守ることであるので、編集委員会に頑張っていたほしいと大政会長よりお願いがあった。

  - ・「生物と気象」の講座記事を継続していく予定である。
  - ・英文誌の充実を図るため、Review paper 等の執筆依頼を積極的に行う予定であり、その際、謝礼を出すことを検討している（審議事項）。
  - ・追加する編集委員の人選を行った。  
武田知己会員と遠藤良輔会員の 2 名を編集委員に追加したい（審議事項）。
  - ・J-Stage の運用変更について  
来年度より会員数に応じてオンライン掲載・査読審査システムが有料化される。当学会は、年

間 30,000 円の負担となる予定である。

2. 学会賞関連報告（表彰担当 広田理事）

学会賞の推薦状況の報告がなされた。

3. 日本農業工学会関連報告（資料3）（総務 荊木理事）

日本農業工学会に関して、以下の報告があった。

- ・30周年記念シンポジウムが10月11日に開催される予定であり、真木太一会員が農業気象関連の基調講演を行う。
- ・2014年5月発行予定の30周年記念誌における「学協会の歩み」について、1600字（1頁）程度の原稿作成依頼があった。執筆担当者を決める必要がある（審議事項）。
- ・JABEEの脱退に関する意見を求められた（審議事項）。
- ・次回理事会は10月4日である。

4. 2014年北海道大会の進捗状況について（別紙資料1-1, 1-2）（広田理事）

日程（2014年3月17日～21日）および会場（北海道大学学術交流会館）に関して説明がなされた。日程（大会スケジュール）は昨年のを踏襲しており、3月21日にエクスカージョンを予定しているとのこと。また、今後のスケジュールに関して、以下のような説明があった。

- ・学会ホームページへの掲載を9月20日を目処に進めていく。メーリングリストでも流す予定である。また、大会参加の郵便振替は、12月の学術誌に投げ込みをする予定である。
- ・オーガナイズドセッションの募集締切を11月中旬に予定している。  
なお、賛助会員の大会参加費について質問があり、3名までは無料とし（会則第4章第10条5による）、懇親会費は有料であるとの確認がなされた。

5. その他各担当理事からの報告

- ・菅野理事より各支部の活動状況について報告がなされた（別紙）。
- ・林理事より、エネルギーフォーラムを東海支部会（静岡県が担当、11月29日(金)～30日(土)に開催）時の公開シンポジウム（29日開催予定会：施設園芸関係、お茶関係）として、開催する予定であるとの報告がなされた。なお、30日はエクスカージョンで静岡県内施設園芸関係・省エネ関係の施設見学を行う予定である。
- ・石郷岡理事より地球惑星連合関係について報告がなされ、タスクフォース会合のリモートセンシング分科会で、産学官連携による利用コミュニティの立ち上げが7月の会合で合意されたことが報告された。これは、宇宙関連予算の削減を踏まえ、衛星リモートセンシング関係の利用と研究事例をアピールしていく主旨で設立されたもので、当学会にも協力が求められており、当面は協力するというところで、経緯を見守っていく方針が報告された。
- ・荊木理事より研究部会の活動予定として、農業リスクマネジメント研究部会が中央農業総合研究センター主催の《第7回農業気象研究会》を協賛する予定であることが報告された。  
また、今後は、理事会の前に、各研究部会の活動状況の確認を行っていくとの報告がなされた。
- ・宮田理事より「農業気象の測器と測定法」の出版事業進捗状況として、宮田理事、小林副会長、岡田前会長で協議を始めたこと、および、想定する読者は、農学関係・環境関係の研究者、技術者、学生であること、出版形態として、学会HPでの公開も視野に入れており、測定方法の

説明のための動画を含めることなどを検討しているとの報告があった。また、計測ガイドブックの改訂版の原稿を入手し、担当者より出版に至らなかった事情の説明を受けたことが報告された。

これらの説明を受け、小林副会長より、改訂版ではなく、新刊として出版を予定しているとの補足説明がなされ、新刊として進める方針を確認した。さらに、編集委員会が進める「生物と気象」における講座「測器と測定法」との関連について質問があり、宮田理事と編集委員会で再度調整を行うこととなった。

#### 6. その他（総務 荊木理事）

- ・農学会関連で「農学進歩賞」の推薦依頼があったが、推薦者はなかったとの報告がなされた。
- ・日本版 NIH 構想についての予算措置に関する要望書に「承諾」したとの報告がなされた。
- ・協賛・後援等（資料4）
  - ①公開シンポジウム「多元的共生を志向する農業環境システム設計科学―「農」のあるべき姿の創造―」（9月24日、日本学術会議）を後援したとの報告がなされた。
  - ②アグロ・イノベーション2013（10月23日～25日）を協賛したとの報告がなされた。
  - ③第5回国際O-CHA学術会議（ICOS2013）（11月6日～8日）を後援したとの報告がなされた。

#### [審議事項]

##### 1. 支部活性化担当理事について（資料5）（総務 荊木理事）

支部活性化担当の会長指名理事として北宅善昭会員（近畿支部）を指名する提案がなされ、承認された。

##### 2. 編集委員会関連（資料2）

- ・SCI申請は2013年9月14日に行い、Vol.69 No.3、Vol.69 No.4、Vol.70 No.1を送ることに決まった。
- ・平野編集委員長から提案された Journal scope と Unique feature について協議した結果、出された意見を参考に、編集委員会で再度検討し内容を確定する（理事会での承認は必要ない）ことになった。
- ・J-Stageからのリンク先が日本語ページになっているので、英語ページへリンクできるようにし、海外から論文投稿しやすい環境の整備を早急に行うことになった。
- ・英文誌の充実化のために Review paper 等を依頼する際の謝礼について議論され、原稿確保のために当面（70巻2号から1年間）は、3万円×10報程度の支出を認めることとした。
- ・武田知己会員と遠藤良輔会員を編集委員として追加することが承認された。

##### 3. 日本農業工学会30周年冊子について

「学協会の歩み」の執筆は、岡田前会長に依頼することとなった。

##### 4. 日本農業工学会 JABEE 脱退について

JABEE の入会や日本農業気象学会が脱退した経緯について大政会長から説明がなされ、他学会の状況についても理事から説明がなされた。日本農業気象学会としては、農業工学会の判断に任せることが承認された。

5. 名誉会員の推薦について（資料5）（総務 荊木理事）

名誉会員の推薦に関する前年度の決定事項（平成24年度第3回理事会ならびに第4回理事会の議事録参照）に従い、真木太一顧問・古在豊樹顧問を名誉会員に推薦する提案がなされ、承認された。

6. 永年功労会員表彰候補者の推薦について（資料5）（総務 荊木理事）

- ・条件を満たしている現支部長を、総務理事から永年功労会員表彰候補者に推薦するとの説明がなされ、承認された。
- ・退会された会員への対応を協議した結果、再入会された場合は対象者とし推薦できることを確認した。身近な理事が連絡を取ることもあった。

7. 表彰事項に関する提案（資料6）（表彰担当 広田理事）

表彰担当の広田理事より出された提案（資料6参照）について協議を行い、

- 1) 奨励賞については、短報も含める、
  - 2) 奨励賞の対象年齢を30歳から35歳に引き上げ、審査期間は過去2年とすることになった。
- 次回の理事会で、学会賞規程の変更案を確認する。なお、論文賞の対象論文については、再検討を行う。

8. 功績賞について（資料7）

在り方委員会（荊木、平野、広田、富士原）委員長の富士原理事より、他学会の学会賞調査資料が配付され、功績賞の取扱いに関する同委員会の取りまとめ案が報告された。その案について協議を行った結果、

- 1) 学会賞規程における功績賞の文言の見直しを行う、
- 2) 新たに貢献賞（団体・グループも対象となる）を設置する方向で、その原案を総務理事・庶務理事が中心となり作成し、次回の理事会で協議することとなった。

9. 2015年関東大会について（資料8）（宮田理事）

2015年度の全国大会（関東支部担当）に関して、会場は文部科学省研究交流センターとし、英語セッションをISAMとして開催する、シンポジウムは、2014年の3月までに開催の有無を決定するなどの開催概要の説明があり、承認された。

また、担当理事より、2015年は、秋に合同大会も開催されるので、学会単独開催の特徴を活かしたい、コンセプトとしては、学生、正会員、賛助会員も含めたコミュニティーを作り、若い方々が積極的に参加できるようにしていきたいとの発言があった。

10. 第4回理事会について

12月7日（土）（13:00～17:00）東京大学で開催、終了後交流会を予定。